

14/22  
系

# 自民・公明 女性候補 1割届かず

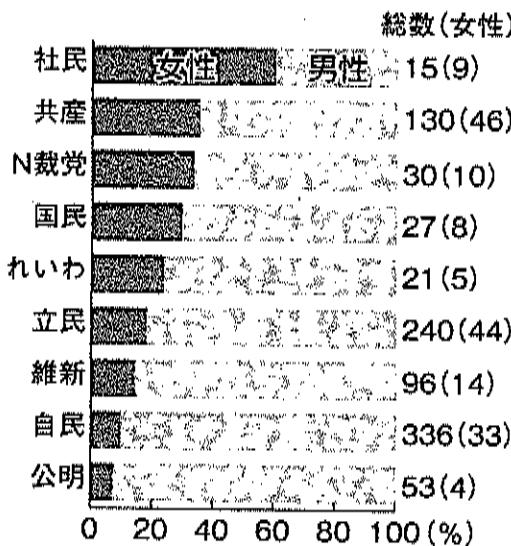
今回の総選挙で与党の自民・公明両党の候補者に占める女性の比率はともに1割未満で、9政党の中でも最低水準となりました。政治の意思決定の場に女性が少なすぎるという現状に対し、両党に打撃の意図がないことを如実に示しています。

女性候補者は、自民党が33人で比率は9・8%（全体336人）、公明党は4人で7・5%（同53人）でした。日本維新の会は自公に次いで低い14・6%（96人中14人）でした。

今回の総選挙は、政治分野でのジェンダー解消をめざす「候補

## ジェンダー平等争点に

各党候補者の女性比率



\*届出終了時。諸派と無所属は除く

者男女均等法」の施行（2018年）後初めて。日本は女性国會議員の比率で、世界193カ国中166位と異常に低位を続けており、03年に大統領選挙（17年）でも1割未満

で、政治分野でのジェンダー平等の遅れの主要因となっています。

岸田文雄首相は18日の日本記者クラブでの党首討論で記者から自民候補者の女性比率の低さを指摘され、「まず環境整備をしていかなければ、目標ありきではなかなか現実は変わっていかない」と弁解しました。

候補者数で  
共産党トップ

日本共産党の女性候補者数は46人で全政党でトップ（比率は35・4%で2位）。比例候補での比率は52・5%となりまし

た。  
思想政治決定の場に増やす意思なし